

平成 22 年 5 月 28 日現在

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2007～2009

課題番号：19300208

研究課題名（和文） 武道文化に関する教材の開発

研究課題名（英文） Development of Educational Materials for Budo Culture

研究代表者

酒井 利信 (SAKAI TOSHINOBU)

筑波大学・大学院人間総合科学研究科・准教授

研究者番号：40281711

研究成果の概要（和文）：本研究の大きなテーマは、武道文化に関する事柄で、“研究レベルでの成果をいかに現場に還元するか”ということであり、そのための教育教材を開発することを目的とする。主な研究成果としては、『英訳付き日本剣道の歴史』(A Bilingual Guide to the History of Kendo) を上梓し、DVD 教材として「武の聖地鹿島神宮で執り行う日本刀奉納鍛錬」および「剣道具にみる職人の技と心」を作成した。この研究成果は、国内のみならずドイツ、ハンガリー、ルーマニアなど海外でも発表し、高い評価を得た。

研究成果の概要（英文）：The main theme of this project is to integrate science and practice of budo. So the purpose of this study is to make educational materials of budo culture. *A Bilingual Guide to the History of Kendo* was published as the main study results. And “A Ceremony of Making Sword at Kashima Shrine” and “Japanese Mentality in Kendo Equipment” were made as DVD teaching materials. This study results were announced also in foreign countries such as Germany, Hungary, and Romania.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007 年度	3,000,000	900,000	3,900,000
2008 年度	1,600,000	480,000	2,080,000
2009 年度	1,500,000	450,000	1,950,000
年度			
年度			
総計	6,100,000	1,830,000	7,930,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学 武道論

キーワード：武道、文化、教材

1. 研究開始当初の背景

武道は、日本のみならず特に欧州を中心として世界的なブームを引き起こしている。日本人はもとより特に武道に興味をもつ外国人の意識は、意外にも武道の競技性にはな

くその文化性に向けられている。

しかし研究レベルでは、武道学を中心に武道文化に関する実に多くの研究成果が報告されているものの、必ずしもこれが一般武道実践の現場に十分還元されていないという

のが現状である。

2. 研究の目的

“研究レベルでの成果をいかに現場に還元するか”ということ大きなテーマとし、基礎研究をしつつ、武道文化に関する教育教材を開発することが本プロジェクトの目的である。

3. 研究の方法

研究の方法は、以下の手順による。

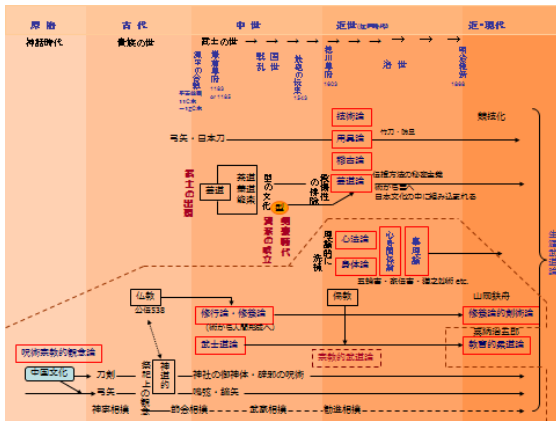
- (1)問題の把握・選定（受け手のニーズを把握し、問題を設定する）
- (2)研究成果（学会にける新しい知見）の理解
- (3)伝達方法の策定（テキスト・スライド・映像）
- (4)教材の作成
- (5)現場への還元およびフィードバック

4. 研究成果

武道文化の鳥瞰図として図1を作成し、武道文化論として以下のカテゴリーを提示した。

① 呪術宗教的観念論：古代原始宗教の一形式である呪術に武が大きく関わり、祭祀上神聖なものとして刀剣や弓矢を位置づける観念論

② 武士道論：中世武士の戦場での行動規範や、近世における主君に対する忠誠を主とする武士道、武士個人の主体的倫理観を主とする



る士道に関する理論

③ 修行論・修養論：日本古来の神道や仏教の影響を受けて形成された、術を向上させる修行に関する理論と、転じて人間性を向上させる修養に関する理論

④ 芸道論：近世以降、茶道や能楽などの影響を受けた武の芸道化に関する理論

⑤ 心法論：特に剣術における技術にかかわる精神面の解決方法に関する理論

⑥ 身体論：武術に特有の身体感覚にかかわる理論

⑦ 心身関係論：精神と身体の間わり方、関

係の法則などについての理論

⑧ 事理論：心身関係論と同意に捉えられる場合もあるが、別に実際の技術と理論の関係についての論であり、大方が修行する際の順序論の傾向が強い。

⑨ 技術論：武士道論や芸道論の影響を受けた様々な価値観が技術を規定する理論

⑩ 用具論：弓矢や刀剣といった武道で使用される用具に対する特別な観念に関する理論。

⑪ 稽古論：武道における技と心の修練に関する理論。

⑫ 修養論的剣術論：近代以降の剣術、特に山岡鉄舟に代表される、修養を修行の最終目的とする剣術論

⑬ 教育的柔道論：近代以降における、特に嘉納治五郎が創始した講道館柔道が主導する、武道に教育的意義を見出す理論。

以上提示したカテゴリーのどの内容について知りたいかを、ハンガリー、ドイツ、ルーマニアの剣道実践現場で調査した結果、③ 修行論・修養論、⑦心身関係論に多くの関心が集まっていることが明らかとなった。この結果については今後発表する予定である。

また、テキスト用の原稿として雑誌「剣道日本」および「月刊武道」に連載し、このうち『剣道日本』の原稿は、『英訳付き日本剣道の歴史』(A Bilingual Guide to the History of Kendo) として上梓された。

内容は以下の通りである。

第一部歴史編 Section 1 Kendo Tradition

- ・ 武道の中の剣道
Kendo as a Martial Way
- ・ 剣道史のはじまり
The Beginnings of Kendo History
- ・ 日本刀誕生
The Evolution of the Japanese Sword (Nihon-to)
- ・ 弓矢から鉄砲へ 鉄砲を捨てた日本人
From Bows and Arrows to Swords - Giving up the Gun
- ・ 剣豪の時代 塚原ト伝
The Age of the Sword Masters - Tsukahara Bokuden
- ・ 剣豪の時代 宮本武蔵
The Age of the Sword Masters - Miyamoto Musashi
- ・ 流派の成立
The Creation of Martial Art Schools
- ・ 剣術流派の三大源流とその系統
The Three Great Kenjutsu Ryuha and their Offshoots
- ・ 剣術の理論化
The Formulation of Kenjutsu Theory
- ・ しない打ち込み剣術のはじまり

The Origins of Fencing with Shinai
 ・新流の台頭と江戸三大道場
 The Rise of New Schools and the 'Three Great Dojo of Edo'
 ・近世後期から幕末の剣術
 Kenjutsu in the Nineteenth Century
 ・近代のまくあけ
 The Modern Period
 ・近代剣道のあゆみ
 The Development of Modern Kendo
 ・昭和の剣道
 Kendo in the Showa Period (1926-1989)
 ・剣道の現状とグローバル化
 The Current Situation and Globalization of Kendo
 第二部文化編 Section 2 Kendo Culture
 ・刀剣の思想①刀剣思想のルーツ
 Sword Ideologies Part 1: The Origins
 ・刀剣の思想②神話の中の聖なる剣
 Sword Ideologies Part 2: Sacred Swords in Mythology
 ・刀剣の思想③三種の神器としての草薙剣
 Sword Ideologies Part 3: 'Kusanagi-no-Tsurugi' and the Imperial Regalia
 ・刀剣の思想④我も斬り彼も斬る剣
 Sword Ideologies Part 4: Cutting the Self and Others
 ・剣豪の修行 参籠開眼
 Ascetic Training of the Masters of The Sanro-Kaigan Legends
 ・剣道と宗教
 Kenjutsu and Religion
 ・生涯剣道
 Lifelong Kendo

また DVD 教材として「武の聖地鹿島神宮で執り行う日本刀奉納鍛錬」「剣道具にみる職人の技と心」を作成し、海外もふくめて発表した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 27 件)

- ①酒井利信：鹿島の剣における一の太刀に関する一考察 - 『兵法自観照』他吉川家文書を中心に - . 身体運動文化研究, 14・15-1, 2009, 1-14, 査読有
- ②屈国鋒, 藤堂良明, 酒井利信：中国武術における「拳経」の位置付け. 身体運動文化研究, 13-1, 2008, 1-10, 査読有

③酒井利信：日本神話における武について - 水とかかわる生成の呪術, 火にかかわる辟邪の呪術 - . 武道学研究, 41-1, 2008, 1-15, 査読有

④屈国鋒, 藤堂良明, 酒井利信：楊氏太極拳に関する研究 - 陳氏拳法から楊氏太極拳への変遷について - . 武道学研究, 40-1, 2007, 27-38, 査読有

[学会発表] (計 35 件)

①酒井利信：Symposium I 「武道におけるからだところ」(コーディネーター). 筑波大学プレ戦略イニシアティブ・スポーツ科学イノベーションフォーラム, 2010. 3. 1, 茨城

②酒井利信：武道史における身心統合の鳥瞰図. 筑波大学プレ戦略イニシアティブ・スポーツ科学イノベーションフォーラム, 2010. 3. 1, 茨城

③SAKAI Toshinobu：Spiritual Sword Ideal in Japan. Kendo Seminar, Hessen Kendo Federation, 2009. 12. 19, Frankfurt GERMANY

④SAKAI Toshinobu：Japanese Deep Spiritual World: Sword Ideologies. Kendo Seminar, Hungary Kendo Federation, 2009. 7. 13, Budapest HUNGARY

⑤酒井利信：千三百年ぶりの神事～鹿島神宮日本刀奉納鍛錬. 身体運動文化学会第 13 回大会, 2008. 11. 24, 茨城,

⑥酒井利信：剣聖・塚原ト伝にみる日本人の心. 茨城県南生涯学習センター, アフターファイブサロン, 2008. 11. 6, 茨城

⑦酒井利信：鹿島の剣に関する一考察. 日本武道学会第 41 回大会, 2008. 8. 29, 神奈川

⑧SAKAI Toshinobu：Great swordsman and his unique mentality. Kendo Seminar, Hungary Kendo Federation, 2008. 7. 17, Budapest HUNGARY

⑨SAKAI Toshinobu：Kendo and its unique mentality. Kendo Seminar, Hessen Kendo

(H20 : 連携研究者)

Federation, 2008.3.2, Frankfurt GERMANY

⑩酒井利信・塚原ト伝研究会：塚原ト伝と日本人の心. 剣聖・塚原ト伝シンポジウム（コーディネーター）， 2008.2.2, 茨城,

⑪酒井利信：日本神話における武一水にかかわる生成の呪術・火にかかわる辟邪の呪術. 日本武道学会第40回大会， 2007.8.30, 東京

⑫SAKAI Toshinobu : Kendo from the days of samurai to modern times. Kendo Seminar, Hungary Kendo Federation, 2007.8.2, Budapest HUNGARY

〔図書〕（計3件）

①酒井利信著, アレック・ベネット訳, スキージャーナル, 英訳付き日本剣道の歴史 (A Bilingual Guide to the History of Kendo), 2010, 全351,

②酒井利信, 東京堂出版, 剣道を知る事典, 2009, 126~127, 178~179, (全編編集)

③酒井利信, 創文企画, 刀剣の精神文化論. 現代スポーツ評論, 21, 2009, 114~119

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.taiiku.tsukuba.ac.jp/~sakai/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

酒井 利信 (SAKAI TOSHINOBU)
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・
准教授
研究者番号：40281711

(2) 研究分担者

岡出 美則 (OKADE YOSINORI)
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・
教授
研究者番号：60169125

(H20 : 連携研究者)

藤堂 良明 (TODO YOSIAKI)
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・
教授
研究者番号：00163949

(H20 : 連携研究者)

鍋山 隆弘 (NABEYAMA TAKAHIRO)
筑波大学・大学院人間総合科学研究科・講師
研究者番号：40334057